FFGで始まる
ビジネスマッチング
のカタチ

このコーナーでは、FFGの紹介で実現したビジネスマッチングの事例を掲載します。

今回は、十八親和銀行の紹介によって業務提携に至った Bugs Well 合同会社と株式会社ウラノの記者会見の様子や提携内容の“昆虫食”について紹介していきます。

▲業務提携に関する調印式にて（左からBugs Well浪方代表、Bugs Well津本代表、ウラノ小林社長）

十八親和銀行 × BugsWell URANO

十八親和銀行
ホームページは
コチラ

Bugs Well
ホームページは
コチラ

ウラノ
ホームページは
コチラ

2021年8月5日、長崎県庁でBugs Well合同会社(以下、Bugs Well)と株式会社ウラノ(以下、ウラノ)による「昆虫食(コオロギ)の生産委託」に関する業務提携の記者会見が行われました。長崎県西海市に本社を構えるベンチャー企業Bugs Well(2021年1月設立)は、長崎県内で料理店を経営する津本氏と同地で地域商社を経営する浪方氏が共同設立した会社で、「人類の食卓に昆虫食を」というテーマのもと、コオロギを通じて世界中の社会問題の解決を目指しています。一方、ウラノ(1950年創業)は、埼玉県に本社を構え、長崎県と群馬県に工場を持つ、金属の切削加工を得意とするものづくりメーカーです。主な産業分野は、航空機の機体・エンジン部品、半導体製造装置部品の製造であり、社会インフラを支える非常に重要な会社になります。この2社の業務提携は、十八親和銀行からの紹介で実現しました。

きっかけは、十八親和銀行の担当者がウラノへ訪問した際に、昆虫食の分野に興味を持っているという情報をキャッチしたところからはじまります。その情報をもとに県内の昆虫食を扱う会社を銀行で調査した結果、銀行と親交が深い浪方氏との縁でBugs Wellに辿りつき、両社の商談が実現しました。お互いの考え方に共通する部分が多く、すぐに意気投合。業務提携に至るまで時間はかかりませんでした。

そして、今回の業務提携の内容は、ウラノの社内遊休施設を利用してコオロギの養殖を行い、生産されたコオロギをBugs Wellが全量買取するというものです。Bugs Wellは、コオロギを粉砕してパウダー状にしたものを使用したチョコレートなどの新商品開発やコオロギパウダーをニーズのある食品メーカー、小売店、レストランなどへ販売することで市場の供給量を増やし、昆虫食がより身近なものになることを目指しています。

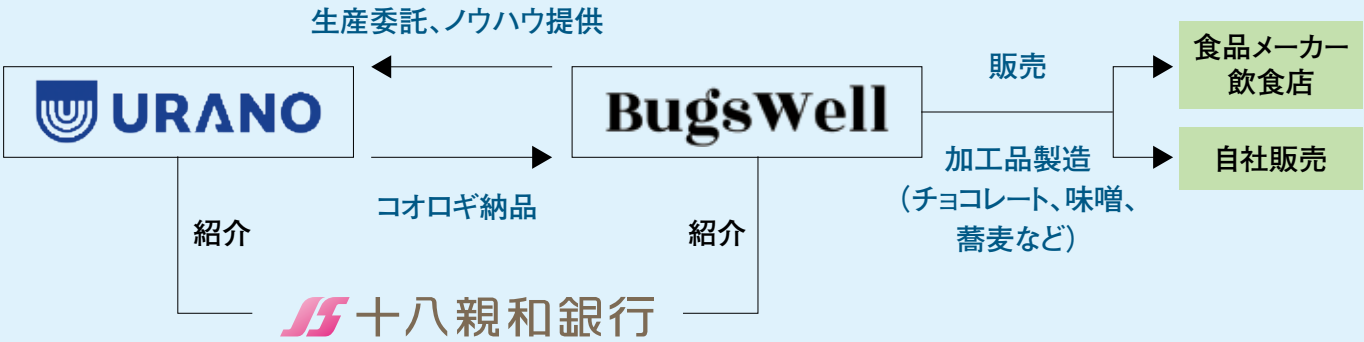
ここからは、なぜ昆虫食なのか、目指すべき姿はどこなのか、どういう効果があるのかなどを記者会見の内容から解説していきます。

記者会見の様子

業務提携イメージ

受託者：新たな働く場の創造、遊休資産の活用、収入源の確保

委託者：生産委託によるコオロギの生産力強化



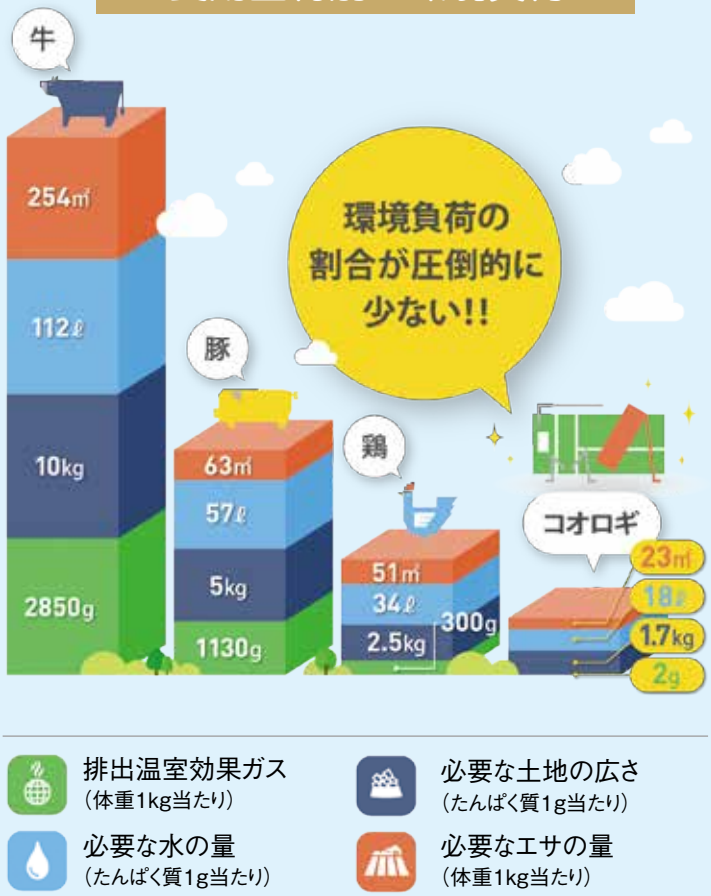
昆虫食が求められる背景

二つの地球規模の課題について、昆虫食がその課題解決の重要なファクターになると考えられています。課題の一つ目は、「地球温暖化」。我々が普段口にしている牛肉、豚肉などの畜産物は、牛、豚などの家畜を飼育してはじめて生まれるものです。しかし、その過程では、多くのCO2、メタンガスの排出や水資源が消費され、地球温暖化の一因といわれています。

二つ目は、「たんぱく質の供給危機」です。2050年にはおよそ100億人に達するといわれている世界人口の増加と世界的な食生活の向上（欧米化・肉食化）によって、食品の需要と供給のバランスが崩れることからお肉に含まれるたんぱく質の供給が追いつかなくなると予想されています。

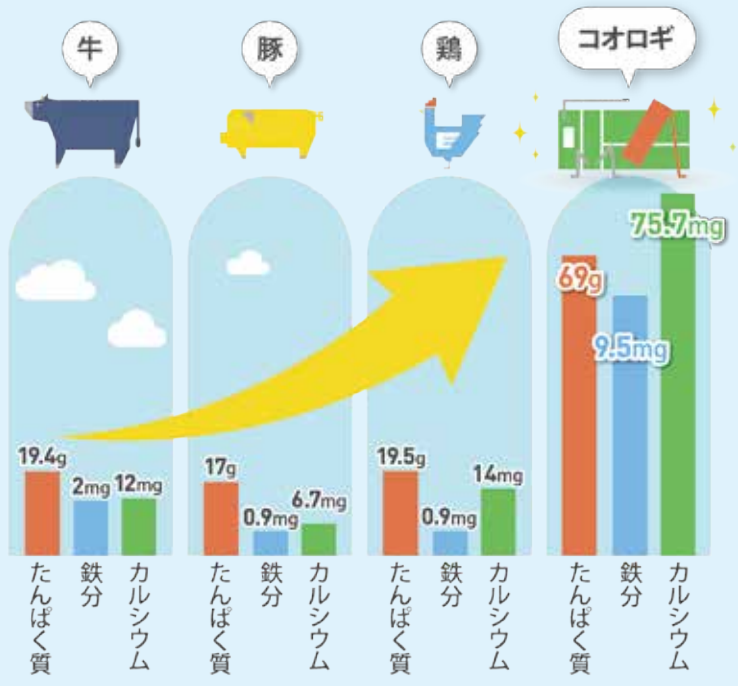
これら二つの課題を解決に導く可能性を秘めているのが昆虫食です。今回は、Bugs Wellが扱っているコオロギを使って解説します。環境負荷の観点から見ると、体重1kg当たりの排出温室効果ガスは牛が約2,850g、コオロギは約2gで大きな差があり、コオロギの方が飼育の過程が環境に優しいといわれています。また、成分比較では、100g当たりのたんぱく質は、牛が約19・4g、コオロギは約69gで3倍近く違いがあるともいわれています。この数字を見てわかるように、昆虫食は環境を考慮しつつ、今後の地球課題を解決するスーパーフードになり得るのです。2013年にはFAO（国際連合食糧農業機関）も代替たんぱく質として昆虫食を推奨しています。

食用生物別の環境負荷



（参照）環境負荷：Food and Agriculture Organization of the United Nations

食用生物別の成分比較（100g当たり）



（参照）成分比較：EatGrub社のドライクリケットを元に算出（EatGrub社調べ）

Bugs Wellが昆虫食を通じて目指す姿とは

「食で人を幸せにする」を前提とした取り組みで、昆虫食を通じて、環境問題、食糧問題、健康促進などの社会問題の解決、新しい産業の創造、そして、「長崎という地から世界へ」未来に繋がる取り組みとして事業の発信を目指しています。長崎でやることの意味は、世界に向けた行動は地方からでもできるというメッセージを伝えたいということ。また、長崎県が掲げているスタートアップ支援、企業創造、産業発展への取り組みが事業を興しやすい環境であるともいえます。今回の提携のように今後も様々な企業と繋がりをもつことでこの産業を広めていき、目指すべき姿を実現していきたいとの思いがあります。

昆虫食事業へ参画するウラノの狙い

ウラノが昆虫食事業へ取り組みはじめた理由は、「地球環境への配慮」、「障がい者雇用の拡充」、「キャリアチェンジの拡充」の三つがあります。「地球環境への配慮」は、今までの説明にもあったとおり、昆虫食が地球環境を守るために与える影響は大きく、企業として地球のためにできることをやっていきたいという思いがあるためです。ここはBugs Wellの思いに共感した部分でもあります。

次に「障がい者雇用の拡充」についてですが、コオロギの養殖では、温度、給餌、抜け殻や糞の処理などを適切に行う必要があるものの、家畜に比べスペースをとることがなく、飼育が容易という点に着目。手足にハンデがあっても取り組めることから雇用の拡大に繋がることを期待しています。

最後に「キャリアチェンジの拡充」ですが、定年後に必ずしも全員が現場で働けるわけではないことから、新たな職場として働く場を提供でき、製造業以外でのジョブローテーション強化にも取り組みができるようになります。

また、飼育場所として社内遊休施設の活用、耕作放棄地の再利用など地域の問題解決に繋がる面や生き物と触れ合うことでメンタルヘルスの改善も期待することができます。

新しい挑戦ながら様々な効果が期待できる事業として魅力を感じているということです。

Bugs Wellの既存委託先による飼育風景

Bugs Wellコオロギ飼育場

ウラノ コオロギ飼育場

現在の取り組みと今後の目標

Bugs Wellでは、新商品としてコオロギとチョコレートを組み合わせた「コロロロチョコ」をクラウドファンディングサイト「Makuake(マクアケ)」で販売を行い、全て完売しています。トレーサビリティがしっかりしているうえに、見た目のかわいさもあり、昆虫食がはじめての方でも安心して食べることができる商品です。消費者と直接つながれるこういったサイトを大切にして、今後も新商品作りを進めていく予定です。

現在、長崎県内外で8事業者と生産委託の契約がありますが、今後も提携先を広げていき、供給量を増やし生産コストをさげることで昆虫食をより身近にしていきたいです。

そして、Bugs Wellのみならず、生活圏や経済圏と良好な関係をとりながらの産業創造・企業成長を心がけて、関係している事業者の所得・雇用が生まれる輪を広げ、全国、そして世界を視野に事業を展開していきたいと考えています。今回の提携がその広がりへの一つのきっかけになると思っています。

Bugs Wellのオリジナル商品

コロロロチョコ

乾燥コオロギにチョコレートをコーティング。

『コロロロチョコ』で使用される材料は純国産食用コオロギとチョコレートのみ。コオロギの味を活かすために余計な材料を使わず、シンプルな配合で、甲殻類に近い香ばしいコオロギの風味とカカオの香りを楽しめるお菓子に仕上げました。1つあたりの大きさは約2cmと食べやすいサイズとなっていますので、初めて昆虫食にトライする方にもオススメです!

クラウドファンディングサイト「Makuake」での販売事例

※現在募集は終了しています

マクアケ販売サイト

今、注目されている昆虫食の中でも最もポピュラーなコオロギ。その香りは甲殻類に近い香ばしさがあり、殻ごと食べられる小エビに似ています。コオロギ自体の味は淡泊で海産物系というよりも豆系に近いと言われています。

上質なチョコレートがブレンドされたチョコレート工場のプロたちが選ぶチョコレート。カカオの風味を感じながらも、優しい自然な甘さを引き出しています。

FFGではブランドスローガンである「あなたのいちばんに。」を実践するために、お取引先様の販路拡大支援、新たな事業価値創造、IT化支援など様々なお悩みの解決を図ってまいります。